

世界を操る支配者の正体

元駐ウクライナ大使 馬淵睦夫 講談社

マスコミは真実を伝えない。政治家は「その人々」にアクセスできない。
残酷な時代をサバイバルするカギは本書に！

(まえがき) ～最後の希望の旅～

表面に出てきていない国際情勢の大変動を見抜いて効果的な対策を立てることが私達の目下の急務です。我が国だけでなく世界全体の命運がかかっています。主要なアクターはロシアと日本そして国際金融です、カギを握るのはロシアのプーチン大統領と安倍総理です。では読者の皆様と共に最後の希望の旅に出たいと思います。

{ 第1章 ウクライナ危機は世界最終戦争の序曲 }

- *ロシアとウクライナの血で賄われた共通の歴史～2014年3月ロシアがウクライナ領クリミア半島の住民投票の結果を受け入れロシア領としたことで米国が激しく反発し、EUや我が国を巻き込んで米国主導の制裁が始まりました。合法的に選出された、ヤヌコビッチ大統領を暴力デモで追い出し米国もEUのこの点、沈黙したままです。元々クリミアは歴史上ロシア領でした。1954年にフルシチョフ首相がウクライナ社会主義共和国に行政管轄を変更、ソ連が崩壊しクリミアの帰属が争点になったがセバストポリ軍港をロシアが租借する事で妥協、ロシア人の人口がクリミア全体の6割を占める事実等を勘案すれば欧米が言う国際法違反の住民投票と片付けられません。ロシアと米国の新しい冷戦の開始となった。
- *メディアの争点は誰が決めているか～影響力を行使しているのはウォール街やロンドン・シティに本拠を置く国際金融資本家達でそれら資本家の戦略に添って決まる。私達は戦後、報道の自由や国民の知る権利の意味を十分吟味せず洗脳されてきた。米国では既に第一次大戦の頃から国際金融家達が真の支配者で今も変わらない。
- *ウクライナ反政府デモの主導者は米国～米国はヤヌコビッチ大統領が権力の座にいる段階で追放後のウクライナ新政権の人事を協議していた、ウクライナのメディアは毎年最も影響力のある外国人を特集するが毎年そのトップは駐ウクライナ米大使。
- *暫定政権は民主化勢力ではなかった～アラブの春の嵐が吹き荒れていた時政府を倒す上で決定的役割は反政府デモに紛れ込んだテロ集団で、彼等はどこから武器を手にしたか欧米のメディアは報じない、暫定政権が非合法政権という事実を目をつぶり一切見ない。この行動パターンは今日の日中、日韓の関係悪化は中韓が作ったにも拘らずメディアは日本政府の行動がその原因だと日夜報道を垂れ流しと同じ、あるテレビで解説者がウクライナの領土の保全の方が

北方領土返還よりも重要だ、とか、ウクライナ市民に北方領土返還の為にウクライナを犠牲にするなら私は日本を許さない、と伝えていたがこれはヤラセでありウクライナの一般市民は北方領土の事等全く知らない、安倍政権の対露外交を牽制妨害策。

- *ウクライナ国民を無視した政変劇～ウクライナ人は伝統文化を大事にする素朴な国民性で日本文学を小学校から教え、松尾芭蕉の俳句18句を9ページ解説、高校では川端康成の千羽鶴が必須科目で異文化を持つ外国を尊敬する態度を養っており今回の政変劇は何らかの意図を持った米国等外国勢力に主導されたと看做される。
- *なぜ今対ロシア経済政策なのか～2008年ロシアのグルジア侵攻の際は経済制裁はなし米国は友好国に拘らず何もせず。今回のクリミア住民投票に基づくロシア編入に対し米国は経済政策を発動し日本を含むG7諸国をも安保理決議もなく従わせた。安倍総理は就任以来プーチン大統領と5回会談し信頼関係構築の最中の出来事、米国の経済政策の中身はロシアへの牽制が主で中身がなく他に隠された意図あり。

{ 第2章 プーチン抹殺のシナリオ }

- *プーチン抹殺の2つのシナリオ～ウクライナ情勢を混乱させ東南部のロシア系住民虐殺でロシアに軍事介入させるか経済政策を強化してロシア経済に大打撃を与える。ソチオリンピックを控え欧米首脳は開会式への出席をボイコット、その理由は何と、プーチンが同性愛結婚を認めないからと正に言いがかりに等しい。又オランダのハーグにある常設仲裁裁判所はロシア政府に対しユーコス社の財産を不当に没収したとして約50億ドルの損害賠償を命じる判決を下し、ロシア政府は撤回を求め訴えた。
- *プーチンが安倍総理に期待する事～プーチンが日本に期待していることは欧米流の近代化と日本の伝統文化を両立させて近代工業に成功したその歴史に注目。プーチンの悲願は「新しいロシアの理念」を実現の為に日本の経験に学ぶ必要がある。
- *偽装作戦に惑わされるな～プーチン抹殺とは米国の衣を着た国際金融勢力がウクライナ危機を口実に再びロシアを勢力下に置こうとの企みでグローバル市場化革命。

{ 第3章 ロシアを支配するものが世界を支配する }

- *欧米首脳がソチオリンピック開会式をボイコットした理由～2008年北京オリンピックの時に中国は新疆ウイグル自治区等で少数民族に血の弾圧中でも欧米首脳は揃って出席、理由は中国が既にグローバル市場に飲み込まれていたからです。プーチンはロシア市場のグローバル化に抵抗しているから欧米諸国は嫌がらせをしたもの。
- *天然資源を奪うための民営化～1991年ソ連崩壊後に新生ロシアにハーバード大学のジェフリー・サックス教授をヘッドに市場民営化チームは「ショック療法」を実践、一夜にして統制経済を自由市場に転換させる手荒い方法、結果は80倍のハイパーインフレーション、IMFの支援で民営化、安値で買い集めて民間企業と銀行化が育った、つぎに政府に融資、返済できない為民営化、

かくしてロシアの石油や鉱物資源は民間所有になった。この銀行家達はオルガルヒと呼びユダヤ系がロシア政治を実質的に支配、2000年にプーチンが大統領になった。

- * プーチンに挑戦した新興財閥～プーチンはビジネスを尊重するので政治に介入しないよう求めたが前任のエリツィン大統領同様に裏から操れると新興財閥は挑戦した為に実力者2人を追放、ガス企業は新興財閥の手に渡らず国家予算の25%を稼ぐ。
- * ロシアの国富を米国資本主義に譲り渡す行為～2003年石油大手のユーコス社長・ユダヤ系ミハイル・ホドルコスキー(欧米と密接関係)をプーチンは脱税理由で逮捕。同年に米国のイラク攻撃でイラク石油を奪う戦いで、米国は世界の主要産油国を押さえ残りはイランとリビアを除けば主要石油大国はロシア。数年後にアラブの春と称される一連の民主化運動の狙いはリビアでカダフィー政権は倒され、未だにテロ横行。
- * 東欧カラー革命は対プーチン戦争～旧ソ連諸国膝元グルジアで2003年バラ革命は米国によって演出。2004年にはウクライナでオレンジ革命、2005年にはキルギスでチューリップ革命が全く同様のパターンで成就した。
- * 東西冷戦時代のステレオタイプな見方ばかり～ロシアは米国の革命方式に対抗する為に2006年NGO規制法を制定、欧米からの資金流入や政治活動に対する規制を強化した。ソ連時代の古いイメージを払拭し白紙の状態で見直す必要有。
- * ロシア人にとってロシアそのものが世界～米国は今回のウクライナ危機を利用して、ロシアをグローバル市場に組み込む為に東欧カラー革命の再来を仕掛けている。ロシア人の生活の基盤であったロシア農村共同体はミールで平和という意味もある。ロシアは世界NO1の国であり例え一部でも他国の意思に支配される事を極端に嫌う

{ 第4章 国際金融勢力対ロシアの200年戦争 }

1. ウィーン会議～ナポレオン戦争で巨大な富を築いたロスチャイルド～国際金融勢力はナポレオン戦争病弊下の欧州各国政府に戦争資金を貸し付け巨大な儲けを得た又英国のウェリントン軍勝利をいち早く入手したネイサン・ロスチャイルドは英国国債を売り始め証券市場は売り一色になり紙くず同然、この時ネイサンはタダ同然で買い集め其処へウェリントン勝利の報がもたらされ英国債は暴騰一夜にして巨万の富！これによりフランスに代わり世界金融の覇者となった英国のコントロール力を持った。民間金融資本家による政府のコントロール図式を免れている例外的な国が現在のロシア。
- * ロシア皇帝が謎の不審死～ナポレオン戦争でロスチャイルド家は欧州の実質的権力者、この新秩序に従わなかったロシアのアレクサンドル1世はやがて不審死を遂げた。米国の最初の中央銀行は1791年設立(株の80%はロスチャイルド家とその仲間)1811年期限切れ更新されず英国と米国は戦争に突入(ロンドン・シティの国際金融が英国政府に圧力)米国政府は債務がかさみ中央銀行の設立を認め、更に20年後ジャクソン大統領は認めず廃止、

- その為米国大統領として初めて暗殺のターゲットにされピストルは不発で難を逃れた
- * 左翼革命運動と国際金融資本家の奇妙な連動～1848年ユダヤ人カールマルクスにより共産党宣言が出され資金援助したのはロスチャイルド家で深慮遠謀があり、共産主義と対立する思想の研究にも援助を惜しまなかった、相対立する思想の力によって、イデオロギーの違いを利用、先導して人々を派閥に分割しお互いに対立させ互いに戦い、破壊し合い、政治制度や宗教組織を悉く破壊するよう洗脳していった。紛争を起こし、双方を援助する事で彼等に対する支配を容易にするといった戦略。
2. アメリカ南北戦争～リンカーンに高利子を要求～1861年エイブラハムリンカーン大統領の下で南北戦争が始まり、戦費調達に苦勞ロスチャイルド家は36%の貸付金利を要求するも拒否、画期的な連邦政府自ら紙幣を発給、債務を負わず紙幣が発行され世界の富と頭脳はアメリカに向かうことになりました。ロンドンタイムズが預言した通りに3年後にはリンカーン大統領は暗殺された。
- * ロシアのアレクサンドル二世もロスチャイルドから恨まれる～南北戦争で英・仏が南部支援で苦慮している時にアレクサンドル二世はリンカーンと同じく民間の中央銀行設立は認めず国立の中央銀行を設立、北軍側で参戦とロシア艦隊を米国に派遣した。同二世は長年懸案の農奴を開放した開明的な君主なるも社会主義者に暗殺された。ロシアは最大のユダヤ人人口を抱え社会主義運動の中心はユダヤ人達だった。
3. ロシア革命＝それはロシアのユダヤ人を開放する為の革命だった～国外に亡命していたユダヤ人がロンドンやニューヨークのユダヤ系国際金融勢力支援で起こした。しかし我が国では現在に至るもロシア革命の真相が教えられていません共産主義は国の資源と物言わぬ大衆を効率よく搾取管理する一握りのエリート支配の思想です。トロッキーは米国在住のユダヤ人を引き連れて革命に従事、金銀財宝を取り上げ革命に資金援助した国際金融家へ返済、皇帝一家と数百万のロシア人を虐殺した。
- * ロシア革命の真相を理解するカギはウィルソン大統領～業績は調べる程操り人形で凡庸な学者と判明、米国では国際金融資本家の意向を無視の大統領選は困難、資金とメディアを支配している勢力が大統領候補選で決定的影響力を有している
 - * ロシア革命と米国中央銀行設立が同時期であった理由～米国連邦準備銀行は100%民間銀行です。かつてジャクソン大統領が一身を賭して拒否し続けた民間の中央銀行を認める複雑怪奇な連邦準備制度法にウィルソンが署名(ロシア革命と同時期)して米国は完全に国際銀行家達の軍門に下った、この方式は現在まで続いています。ソ連邦政府は中央銀行を設立、アレクサンドル一世以来百年の抵抗は終了。
 - * 第二次世界大戦の戦後処理の大枠はロンドン・シティが決めた～1944年10月モスクワでスターリンが戦後処理で、チャーチルと会談した際のメモが「ロンドンの特定の人間の考えを示す」と言明している(ロスチャイルド家の当主のこと、と思われる)
 - * 使い捨てられた「ソ連」～東西冷戦は国際金融勢力が自ら樹立したソ連という国家を使ってアメリカ「国家」を解体しようと狙ったもの。

ソ連の脅威を使って米国を牽制すると共に朝鮮戦争やベトナム戦争等に巻き込んで国民の士気を低下させようと工作したのが東西冷戦の真相です。米国経済は病弊、貧困層は拡大、こうして米国を動かす力をつけた国際金融勢力はソ連崩壊・民有化現在ロシアを狙っているのは米国・国家ではなく米英に本拠を置く国際金融資本家。

{ 第5章 道徳と民族を破壊する4人の洗脳者 }

- * グローバリズムという妖怪～現在地球的規模で世界をグローバル化しようと策動している国際金融勢力と国家の独立を守ろうとしているナショナリズムの戦いに我が国も投げ込まれている。
- * ボルカーは正しかったか～米国のドルを発給しているのは国際銀行家が株主である中央銀行で米国政府に何ら権利はなく、経済活動は市場に任せている、グリーンSPANは回想録でレーガン大統領にFRBの決定に干渉しないよう忠告したと明言した、大統領就任直後にレーガン暗殺未遂事件が起こり単独犯とされたが疑問が残る。
- * 私達に「選択の自由」はあるのか？～レーガノミクスは経済活動に政府の規制をできる限り撤廃市場の調整に経済運営を任せる狙いで規制緩和自由競争が奨励、その結果貧富の差は拡大、民営化は私有化というべきで市場経済を通じ貧富拡大。
- * 新自由主義は利他主義を排撃する～新自由主義の理論的指導者ユダヤ系米国人アイン・ランドの徹底した利己主義の主張は米国では知らない人がいない程人気があり、原理主義で規制を一切認めない、利他主義を一切認めない硬直した主張。
- * 正邪が逆転した世界～リーマンショックの原因を作ったと言われるグリーンSPAN元FRB議長がランドを師と仰いでいる事実に注目する必要がある。強欲資本主義の失敗が明らかになったにも拘らず、新自由主義経済政策は現在に至るも維持は問題。
- * 市場が侵しがたい権威なのか？～主として外国人投資家は毎日のマネーゲームでいくら利益を上げるかに興じているだけ、日本の経済専門家もグローバリズム的発想。
- * グローバル市場化を目指す米国は左翼～ブレジンスキー(カーター大統領・オバマ大統領政権下で重鎮)米国の大富豪デヴィッド・ロックフェラーも世界の国境を越えて資本投下、商品や人の自由な流れが世界経済の成長と民主的な制度をもたらすと断言グローバル化は避けられない現象で必然的に経済成長と民主化をもたらすと
- * アメリカが干渉しやすくするための「民主化」～米国の戦略は先ず民主化、次に民営化、最後にグローバル化、米国の云う民主化は金と情報による支配を容易にするという意味、アラブの春、東欧カラー革命と異なり、ウクライナがターゲットではなくプーチン失脚と親欧米政権樹立はロシアの民主化要求でグローバル市場への飲み込み
- * ジャック・アタリという「預言者」～ユダヤ系フランス人でサルコジ元大統領の下で21世紀に向けての政策提言で日本でも一躍有名＝市場万能主義で超格差社会となり、自然環境は食べ物にされ軍隊、警察、裁判所含めすべて民営化即ち国家が民営化。
- * 世界政府樹立のために市場万能主義の恐怖を刷り込む

アタリの意図＝市場万能社会は人類を滅ぼす危険性があるとし「世界政府を樹立」する事で世界の紛争を抑制、その為の市場万能主義の恐怖を刷り込もうとしている。

- * 国家の歴史とは国家にカネを貸す者の歴史～アタリは過剰な公的債務の解決策は 8 つあると、増税・歳出削減・経済成長・低金利・インフレ・戦争・外資導入・デフォルトを挙げこれ以外にないと断定、しかし決定的に重要な解決策は通貨発行権を持つ中央銀行の改編で民間の中央銀行を公的な中央銀行にする事で全て債務は解決。
 - * アメリカがドルで金融を支配できた時代の終焉～アタリの狙いは即ち彼に本を書かせた勢力の狙いは世界統一通貨の創設と世界政府樹立である事が明らかになった。アタリが来日した時、菅首相が会見する等民主党政権下で我国は精神的弛緩状態。
 - * スティグリッツは庶民の味方ではない～「世界を不幸にしたグローバリズムの正体」の著書の中で世界銀行やIMFの発展途上国に対する融資政策を批判して脚光を浴びたが、問題はどのようにグローバル市場化を進めるかにあると主張の推進論者。彼の主張は 2012 年出版「世界の 99%を貧困にする経済」で一層明確になった。
- 「中央銀行が政府から独立している本当の理由」～FRBの歴史を見れば銀行家の利益にかなう通貨供給や金利政策をとってきている中央銀行の独立性はナンセンス。マネーを支配する中央銀行(FRB)の株主は国際銀行家であることは明らかです。
- * 私達が日本という国を失う日～現在進行中のグローバリズムは世界政府樹立運動で国境の廃止、政府の規制廃止、移民の自由化等世界政府樹立目的の運動の一環、中央銀行のネットワークが世界政府構築のための推進グループでその頂点にIMF。
 - * アメリカにもあったジェノサイド～米国人にとって彼らの世界進出は神の正義を世界に拡大する事、世界をアメリカ化する事、明白な使命は宗教的色彩を帯びたもの。
 - * グローバリズムはアメリカ建国の精神を否定する～ユダヤ系ブレジンスキーは、米国はWAPSに代りユダヤ人が最も影響力を持つ国になったと明言している。
 - * グローバリズムの道徳破壊工作～ジェンダーフリーは男女の平等を実現しようという運動ではありません、私達の伝統的な道徳規範を崩壊させ市場の力を存分に発揮できるようグローバリスト達の工作で大資本の利益に結果として奉仕しているのです。
女性の活用や移民の受け入れ等はグローバリストの洗脳工作であると見抜く事です。

{ 第 6 章 ディアスポラ化する人類 }

- * 自らの意思で離散したユダヤ人もいた～ユダヤ民族にとって切実な問題は祖国が滅んだ状況の中でいかに民族として生き延びるかにあった、グローバリズムの下ではユダヤ人以外の民族主義は認めていない民族主義的なものは全てユダヤ人が独占、世界がユダヤ化すればイスラエル国家は安泰し滅亡する事はないと考えている。
- * グローバリズムは 21 世紀の共産主義～共産主義はディアスポラ化された人間を普遍的なユダヤ思想へと誘う飛び石であった、国境廃止を唱える 21 世紀のグローバリズムはかつての共産主義と同じく国際主義的性格を帯びたイデオロギーです。 P 6

*グローバリズムとナショナリズムの最終戦争～私達が今日撃しているのはグローバル市場化がもたらした超格差社会や環境破壊等の負の現象です。聖書の言葉を借りていえば地上の楽園とは「エデンの園」の事で各々の民族がその特性を生かして共存する世界こそエデンの園をもたらす可能性があり、グローバル市場ではない。グローバリズムとナショナリズムの壮絶な戦いの中で騎手は国際金融財閥とプーチンのロシアで現在の駆け引きが 21 世紀の世界の秩序を決める事になります。

我が国は、米国程グローバル化はされておらず、ロシアよりグローバル化されています。民族としてのアイデンティティと国民の一体性を保っている国です。しかも 2600 年以上に渡り存続している世界唯一の国です。我が国の経験は国家の生き残りを達成するヒントを世界に与えている**と言えるのではないのでしょうか。**

{ 終章 歴史認識大戦争に備えよ }

- * ルーズベルトの参戦と同じ手法～ルーズベルトは欧州大戦にアメリカは決して参戦しないと公約して大統領に 3 選されたが秘策を日本に向け日米通商条約を破棄して石油の対日輸出を禁止等で日本を挑発して真珠湾攻撃奇襲となりそのお陰で欧州大戦に参入することが出来た。私達はこの歴史の教訓に学ばなければなりません。
- * 日本を封じ込めてきた「戦後東アジアレジューム」～2015 年は戦後 70 周年の節目、中・韓・米は歴史認識で我が国に対する攻勢を強め、日本が再び東アジアの地域大国になるのを防止する為に中・韓・北朝鮮を使い日本を牽制する米国の対日封じ込め作戦です。米国は影響力を持つ国連に於いても、韓国と一緒に慰安婦問題を日本攻撃の材料として、又米国は尖閣諸島が日本領と認めず中国との紛争を意図。
- * 中国と韓国に国民経済は存在しない～韓国はサムスンも主要な企業も外資が支配する外国企業で国民の格差は広がり家計の借金は増大を続け典型的なグローバル市場化の実態。中国のグローバル市場化で潤ったのは、国営や公営企業を牛耳る中国共産党幹部や人民解放軍のエリート達で彼等は欧米の資本と組んで中国労働者を搾取し巨額な蓄財に成功した。中韓に共通するのは、国民経済は存在しない事。
- * 日露関係強化の世界史的意義～プーチン大統領が目指しているのはグローバル市場化とロシア国民経済との共存で自ら執筆した論文、新千年紀を迎えるロシアの中で「ロシアの新しい理念は、人道主義に基づく世界の普遍的価値と、20 世紀の混乱も含めて時の試練に耐えた伝統的価値とを有機的に統一する時に実現するだろう」と明らかにしています。これは極めて重要なメッセージです。プーチン大統領のもう一つのメッセージは「日本の文化や哲学に親しんだ者として日本を愛さずにはいられない」と高い関心を示し欧米流の近代化と日本の伝統文化の両立に成功して今日の実現を遂げた日本の経験から汲み取りたいと、きわめて重要なメッセージを示唆。
- * アメリカ、中国、韓国だけが安倍総理を評価しない理由～日本が拉致問題を解決しようとイニシアチブをとると、

それは北朝鮮の核やミサイル問題についての米韓日の結束に影響するので好ましくない。茶々を入れる米国の人権ダブルスタンダードに私達ははっきりとノーを突き付けなければなりません。永遠の友好国も、永遠の敵国もなく永遠にあるのは国益のみ。

* 北方領土交渉の切り札～プーチン大統領にとって喫緊の国家課題である、天然資源輸出型経済から近代工業型経済への転換に協力できる国は日本しかありません。そこで、安倍総理の北方領土交渉の切り札は「日本は朝野を挙げてロシア型の近代工業国家建設に協力する。具体的には日本企業は合弁や投資等によって日本の経営方式をロシアに合う形でロシア企業に移転する。又日本政府は産業政策や各種行政指導のノウハウをロシア政府に提供する。以上の官民経済技術協力を全面的に行う」これに対しプーチン大統領は北方四島の返還を決断する可能性はある。

* アメリカをどう説得するか～現在の米露貿易関係は日露貿易の水準にも達していない程の低い水準、ロシアの近代工業化が米国企業のロシア投資や輸出の拡大に貢献する事を我が国は説得すべきでしょう。

* 歴史認識大戦争に勝利する道

第一は世界にとっての意義～グローバリズムとナショナリズムの戦いに於いてロシアの近代工業化への日本の協力は両者の激突ではなく共存の道を開く具体的モデル

第二は我が国にとっての意義～日露関係の強化は2015年の戦後70周年歴史認識大戦争に我が国を勝利に導いてくれることになる。我が国が敗戦後の荒廃から奇跡的な経済復興を成し遂げたのは国民の精神が滅んでいなかったからです。2000年以上にわたって我が国が存続できた最大の理由は高い道義性の下に1つに纏まった国民が存在したからです、外交を支えるのは私達国民の意識である事を認識すべきで、私たち自身が古来受け継いできた道徳は「日本を取り戻す」事に直結します。

(完)